

記 事

◎第 10 回理事会 (昭.29.3.11) 出席者：平井会長，福田，菊池両副会長，兼重，榎，中路，佐島，篠原，最上の各理事，議事：1) 2 月中行事その他報告，2) 昭和 29 年度事業計画案，3) 昭和 29 年度予算案，4) 関東地区常議員半数改選方法，5) 名誉員候補者，6) 土木賞受賞者の講演，7) 後任理事候補者，8) 常議員会の開催日，9) 朝日科学奨励金研究者推薦，10) 海外連絡委員会の決議にもとずき JSC に国際会議代表者推薦，11) 支部役員承認，12) 委員会委員委嘱，

a) 土木工事写真集委員会：(委員長) 米田正文，(委員) 山本三郎，木村弘太郎，小池蒼，山内一郎，市浦繁，田中五郎，岩井四郎，坂本信雄，高野務，貝島太三郎，片平信貴，高谷高一，五十嵐醇三，田村徳一郎，清野保，小野木次郎，高坂紫朗，金谷明，小田仁，榎修仁，友永和夫，林綱太郎，(幹事) 小林泰，高橋克男。

b) 土木工学論文抄録委員会：(委員長) 本間仁，(委員) 久保慶三郎，○平嶋政治，三木五三郎，渡辺隆，井口昌平，嶋祐之，吉川秀夫，丸安隆和，伊東茂富，樋口芳朗，水野俊一，伊丹康夫，田中亮，米元卓介，西畑勇夫，篠原清，千秋信一，畑野正，岩塚良三，徳平淳，野中八郎，左合正雄，藤野義男，長尾義三，谷藤正三，中村滋，田原保二，西村俊夫，○西脇威夫，和仁達美，安河内麻雄，伊地知堅一，池原武一郎，田村徳一郎 (○印幹事)。

c) 土木会館建設委員会：(委員長) 金子源一郎，(委員) 市村益夫，佐藤九郎，沢勝蔵，塩沢弘，滝尾達也，立花次郎，中路誠三，町田保，渡辺寅雄，(幹事) 五十嵐醇三。

13) 雑誌交換承認，14) 会員入退会承認。

◎臨時常議員会 (昭.29.3.30) 出席者：平井会長，福田，菊池両副会長，那波，大河戸，八田，草間，安芸の各名誉員及び鈴木前会長，岩塚，川口，近藤，田中，三上，酒井，荒井 (代井上)，天埜，宇野の各常議員及び委任状 18 通，兼重，中島，片平，坂本の各理事，議事：1) 昭和 29 年度事業計画及び予算案承認。

本部事業計画案

(行 事)

- 4 月 関東地区常議員改選，學術用語集 土木工学篇及び土木工学ハンドブックの発刊
 - 5 月 通常総会，第 10 回年次學術講演会，見学会
 - 8 月 夏季講習会
 - 9 月 応用力学連合講演会，橋梁構造工学研究会
 - 10・11月 創立 40 周年記念式典，秋季見学会
- その他臨時講演会，映画会を開催のこと。

(各種委員会)

編集委員会：会誌論文集の編集のため毎月 1 回
抄録編集委員会：会誌の抄録欄のため毎月 1 回

水理委員会：研究，講演会，年報及び論文集の編集
土木用語委員会：學術用語集 土木工学篇発刊
コンクリート常置委員会：コンクリート技術及び示方書の研究

プレストレスト コンクリート委員会：P.C. の設計及び施工指針の研究

土木工学叢書委員会：叢書の企画

法規委員会：工務士法研究

製図規格委員会：各部門の基準を研究

土木工学ハンドブック編集委員会：発刊後解散

海外連絡委員会：国際会議との連絡

橋梁構造委員会：JSC 国内委員会の分科委員会として活動

土木賞委員会：土木賞誌衝

40周年記念事業委員会：記念事業の協議

土木会館建設委員会：土木会館建設の企画

大正以降土木史委員会：土木史の編集

土木工学論文抄録委員会：論文抄録 (昭.24~28) 編集 (29年度内)

土木工事写真集委員会：工事写真集を記念式典までに発刊

法面築堤崩壊防止委員会：成果を得たとき解散

コンクリート構造物委員会： " 国鉄委託

鋼鉄道橋設計示方書委員会： "

昭和 29 年度予算案

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I. 会 費	11 269 000	I. 事 務 費	6 188 000
1) 正准学生会費	7 482 000	1) 敷 地 及 び 料	238 000
2) 特 別 員 会 費	1 127 000	2) 職 員 諸 給 与	3 240 000
3) 通 年 度 収 入	600 000	3) 旅 費 及 び 通 信 費	1 150 000
4) 特 別 賛 助 費 成 果 助 成 費	2 060 000	4) 事 務 諸 費	1 310 000
II. 文 部 省 費 補 助 入	250 000	5) 雑 費	250 000
III. 諸 刊 行 物 収 入	3 920 000	II. 会 議 費	270 000
IV. 雑 収 入	3 710 000	III. 負 担 金	60 000
		IV. 支 部 交 付 金	900 000
		V. 事 業 費	11 233 000
		1) 会 誌 発 行 費	5 173 000
		2) 論 文 集 及 論 文 抄 録 発 行 費	950 000
		3) 諸 図 書 印 刷 費	1 780 000
		4) 講 演 講 習 会 費	600 000
		5) 調 査 及 び 研 究 費	1 730 000
		6) 諸 費	1 000 000
		VI. 營 繕 費	100 000
		VII. 積 立 金	100 000
		VIII. 前 年 度 繰 越 損 失 補 充 費	100 000
		IX. 予 備 費	198 000
合 計	19 149 000	合 計	19 149 000

- 2) 基金報告，3) 昭和 28 年度土木賞受賞者報告，
- 4) 会員倍加運動について。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.29.3.22) 出席者: 岡本, 佐島正副委員長, 村山(代岩井)関西地方委員, 坂本, 小松原, 斎藤, 鈴木, 丸安, 寺西(代), 各委員, 中川書記長, 徳平幹事。協議事項: 1) 会誌及び論文集進捗状況報告, 2) 投稿論文及び新規受付論文審査委員の決定, 3) 39巻5号登載論文を次のごとく予定,

山田順治: 鉄筋コンクリートはりの破壊荷重に関する実験的研究, 荒木謙一: A.E. コンクリートの付着力に関する研究, 佐々木八郎: 砂の粒度曲線と有効径についての一考察, 猪股俊司: プレストレストコンクリート国際会議に出席して, 塚本正文: 計算尺による加減算, 黒田静夫: 第18回国際航路会議の結論と決議について。

4) 39巻3号討議依頼先の決定, 5) 40周年記念事業に関して編集部の計画を協議, 6) 編集委員交代について。

2. 抄録委員会(昭.29.3.9) 出席者: 森委員長, 平嶋, 渡辺(隆), 松本, 林, 半谷の各委員, 千秋抄録幹事, 徳平編集幹事。議事: 1) 第39巻4号抄録として6篇を決定, 繰越14篇, 新規12篇につき協議した。2) 抄録欄活字を小さくすることを協議したが編集委員会にて可決されたため39巻3号より実施した。3) 吉村委員(港灣) 辞任のため後任として久保島信弘君を依頼することとした。

3. 海外連絡委員会(昭.29.3.2) 出席者: 田中委員長, 千秋, 平井両委員, 福田副会長, 兼重, 坂本, 最上の各理事, 議事: 1) International Congress of Ready-mixed Concrete は詳細不明のため様子を見てから考慮, 2) Assembly of the International Ass. of Hydrology は IUF の分科会で JSC 第4部から安芸峯一君を推しているとのことで当委員会はこれに同調し, 外に石原委員申出の速水頌一郎君を推すこと(後に速水君は辞退した), 3) 2nd Congress International Commission on Irrigation and Drainage は政府機関として国内委員会があるから JSC には推薦しないこと。ただし当学会としては建設省河川局長米田正文, 農林省建設部長桜井志郎の両君を国の代表として適任と認める。建設省としては大阪府河川課長八島忠君を推薦したい希望があつた。4) 4th General Assembly of the International Union of Pure and Applied Mechanics (力学連合・分科会としては特に Photoelasticity and Photoplasticity に関するもの) JSC では協議の結果 Photoelasticity の使用者でなく専門家を出すことに決定報告済だから当学会として推薦しない。5) Annual Meeting of the International of Welding には前溶接学会会長青木楠男君を推薦す

ること。6) Annual Meeting of the International Commission of Navigation Congress は日本政府がこれに加盟し, 運輸省港灣局長外1名が代表委員となり議決権を有するので政府代表を送るべく運輸省で準備中である。当学会は坂本信雄君を適任と認める。7) International Harbour Congress は昨年わが国で太平洋港灣会議を開催したのでこれを国際的のものにしようとの運動が起されているがこれは港灣の管理宣伝等で学術的でなく運輸省所管の政府機関となるようだから学会として推薦しない。

4. 法面築堤崩壊防止委員会(昭.29.3.4) 出席者: 沼田委員長, 最上, 星埜, 竹下, 高坂, 小田の各委員, 伊崎, 伊地知, 梶田, 木村, 斎藤, 浜, 松波, 三木, 和仁, 渡辺の各幹事, 議事: 1) 築堤崩壊箇所調査報告, 2) 御殿場線築堤内部調査報告, 3) 道路工事における転圧方法の鉄道の高築堤工事に対する適用, 4) 報告書の様式について一同討議。

5. 第3回鋼鉄道橋設計示方書委員会(昭.29.3.5) 出席者: 田中委員長, 沼田, 青木, 福田, 成瀬, 平井, 奥村, 田原, 田中, 友永, 多田の各委員, 川崎(代), 西村, 菊池, 田島, 大宮, 橋本, 宮崎, 安浪の各幹事, 議事: 1) 荷重の種類, 衝撃の問題, 遠心荷重, 風及び横荷重等の再審議, 2) 許容応力の大体審議。

6. 第1回土木工事写真集委員会(昭.29.3.5) 出席者: 福田副会長, 米田委員長, 兼重理事, 山本, 木村(代), 小池, 市浦, 田中, 岩井(代), 坂本(代), 五十嵐(代), 田村(代), 高坂(代), 友永, 林の各委員, 小林, 高橋及び金屋敷の各幹事, 議事: 1) 写真集の完成時期, 写真の範囲, 量及び質等について検討した結果, 各委員が次回までに構想をまとめて持寄ること。

第2回同委員会(昭.29.3.17) 出席者: 山本(代), 木村(代), 小池(代), 山内, 市浦, 田中, 岩井(代), 坂本(代), 高野(代), 貝島(代), 高谷(代), 五十嵐, 田村(代), 小野木(代), 高坂, 金谷, 小田(代), 榎, 友永の各委員, 小林, 高橋, 金屋敷の各幹事, 議事: 1) 前回に引続き各部門の構想の紹介, 編集方針の細部, 学会と部門別当局との連繫, 2) 5月末まで各部門の構想に従つて写真を集めこれを5月末に持寄つて編集方針の細部を協議すること, 3) 漁港, 治山関係委員として林真治, 塚野忠三の両君を追加委嘱すること, 4) 各部門の研究機関における重要な活動に関する写真を集めて持寄ること, 5) 各土木関係業者の団体に学会から依頼状を出すこと, 6) 写真を集める場合の目標について。

7. 土木賞委員会(昭.29.3.8) 出席者: 吉田委員

長、平井会長、福田副会長、青木、坂本、千秋、本間、町田、松村(代)の各委員、議事：投票数 21、開票の結果次のとおり決定した。

学会賞：トンネルのコンクリート覆工から切取ったコアの圧縮強度試験 (38 巻 1 号)

坂本 貞雄

プレストレスト コンクリート桁に関する研究 (論文集 17 号)

猪股 俊司

奨励賞：現場コンクリートの品質を管理するに際しての二、三の問題 (論文集 16 号)

水野 俊一

堤体の 2 次元圧密の研究 (論文集 16 号)

盛土の施工制御に対する考察 (38 巻 9 号)

赤井 浩一

工学材料の模型解析 (38 巻 9 号)

樋口 芳朗

8. 土木工学論文抄録委員会 (昭.29.3.10) 出席者：平井会長、本間委員長、三木、渡辺(隆)、井口、嶋、吉川、丸安、伊東(代)、伊丹、田中、米元、篠原、千秋、畑野、岩塚、徳平、左合、藤野(代)、長尾(代)、谷藤、中村、西村、和仁、安河内、伊地知(代)、田村(代)の各委員、平嶋、西脇両幹事。議事：平井会長の挨拶に次いで本間委員長から経過報告、1) 土木工学論文抄録第 5 集は 昭.24.1~昭.28.12 間 5 ケ年間の土木工学に関する国内雑誌報告類から文献を抄録する、2) 雑誌のうち A クラスを決定、3) 各委員の分担を決定し各雑誌の題目及び著者名の一覧表を 3 月末までに学会事務局に提出しこれをプリントして次回で担当を決定する、4) 原稿用紙案を審議。

9. 第 4 回コンクリート鉄道構造物委員会 (昭.29.3.12) 出席者：吉田委員長、高橋、国分、最上、丸安(代)、大槻、星野、小田の各委員、白石、篠田、杉木、浜、横山、深谷、田村、川口の各幹事、議事：1) 原案の 10 条衝撃 (3) から 15 条水圧、流木の衝突力、波力まで逐条審議。第 5 回同委員会 (昭.29.3.24) 出席者：吉田委員長、最上、平井(代)、高坂、大槻の各委員、川口、田村、白石、西村、池原の各幹事、議事：第 9 章 38 条~49 条を逐条審議。

10. 第 14 回プレストレストコンクリート委員会 (昭.29.3.12) 出席者：吉田委員長、国分、丸安(代)、田原、山田、片平(代)、川崎、伊東(代)、猪股、宮崎、海上(代)、藪島、渡辺(代)、山崎、菅原、田村、川口の各委員、議事：1) 8 章 35 条~37 条審議、第 15 回同委員会 (昭.29.3.24) 出席者：吉田委員長、伊東、猪股、海上(代)、片平(代)、川口、川崎、木村(代)、国分、菅原、田村、田原、樋口、宮崎、山崎、山田、渡辺(代)、友永の各委員、議事：8 章 38 条~49 条審

議。

11. 鋼鉄道橋及び道路橋設計示方書に関する合同委員会を 昭.29.3.15 開催し、許容応力、衝撃、リベット荷重及び地震等の共通問題についてある程度歩調を合わせるよう協議した。

12. 第 1 回土木会館建設委員会 (昭.29.3.23) 出席者：平井会長、金子委員長、佐藤、塩沢、立花、中路、町田、渡辺の各委員、五十嵐幹事、議事：会長から本委員会設置の経過と各委員委嘱の挨拶の後、金子委員長の挨拶について議事に入り、1) 委員会の性質、位置について、2) 各委員から候補地として四谷附近、飯田橋附近、後楽園、水道局跡、土橋附近等を挙げたが各委員次回までに分担調査すること、3) 経営が成立つような場所を物色すること、4) 次回にビル経営専門家の出席を依頼する。

13. 第 4 回鋼鉄道橋設計示方書委員会 (昭.29.3.26) 出席者：田中委員長、青木、福田、成瀬、高坂(代)、田原(代)、平井(代)、田中、友永、多田の各委員、西村、菊池、田島、大宮の各幹事及び川崎連絡員、議事：1) 記録 No. 4 の説明、2) 資料 No. 23 の第 19 条~42 条の審議。

支部だより

◎北海道支部 昭和 29 年度事業計画並びに予算は新役員決定後確定するが大体 28 年度と大差なく、役員会、見学会、講演会、講習会及び研究発表会を数回開催するほか技術資料第 9~11 号を刊行する予定である。

◎中部支部 第 4 回役員会 (昭.29.3.26) 出席者：松本支部長、松見幹事長、元支部長及び各役員のほか会員 40 数名、議事：1) 28 年度諸行事及び会計報告、2) 29 年度支部長選任を諮った結果満場一致愛知県土木部長大林勇治氏に決定、以上議事終了後晩餐会に移り、支部発展策等について懇談した。プレストレストコンクリートと構造力学講習会 (昭.29.3.26~27 両日名交会館において) 参加者約 200 名を突破し、非常に盛況裡に終始した。講師及び題目は次のとおりである。挨拶(松本支部長)、欧米における各国プレストレストコンクリートの方法その他(綾亀一)、プレストレストコンクリートの設計及び材料について(猪股俊司)、最近の構造力学(岡本舜三)、振動工学(小西一郎)、日本におけるプレストレストコンクリートの現況をスライドについて講演(仁杉巖)、プレストレストコンクリートの破壊試験(名工大土木教室で実験)。

◎関西支部 第 5 回役員会 (昭.29.3.10) 出席者：鈴木支部長、高西、福留、和田の各元支部長、岩井、遠

藤, 山本(代), 海淵, 福林, 丸山, 三宅, 樋渡, 天野の各商議員, 柴橋, 森垣, 成岡, 安藤の各幹事, 議事: 1) 昭和 29 年度予算並びに事業計画は原案どおり決定, 2) 第 27 回総会は 5 月中旬開催することとし, 天野商議員委員長となり実行委員会を作り開催要領を具体的に定めること, 3) 土質委員会を設置すること, 4) 第 10 回年次学術講演会講演募集については幹事会で選定報告すること。報告: 1) 本部常議員の推薦, 2) 橋梁工学講習会の経過, 3) 商議員秋山君の後任は川口源九郎君に決定, 4) 次期役員選挙に関し推薦委員会で報告, 5) 会員増加運動について。昭和 29 年度事業計画: 1) 第 27 回支部総会 (5 月), 見学会 1 回, 役員会 4 回, 講習会 1 回, 講演会 1 回の予定。橋梁工学講習会 (昭 29.3.25~26 両日, 桜橋公会堂において) 参加者 400 名を突破し, 会場も立錫の余地なき盛況であつた。講師及び題目は次のとおりであつた。橋梁構造の最近の進歩 (小西一郎), 応力測定法と鋼橋の実験応力解析学的研究 (成岡昌夫), 橋梁の溶接 (渡辺正紀), 合成桁について (安宅勝), 箱桁橋梁 (小西一郎), プレストレストコンクリート橋 (海上秀太郎), 吊橋について (平井敦), 以上講演終了後プレストレストコンクリート橋梁現場その他の見学を行った。

◎中国四国支部 29 年度事業計画: 役員会 (年 4 回), 学術講演会 (10 月), 見学会 (明塚ダム及び物部ダムの 2 回), 映画及び講演会 (5 月) 等。

◎西部支部 新役員を下記のとおり決定。

(支部長) 熊川信之, (商議員) 伊藤剛, 加藤正晴, 大島末彦, 飯田一実, 永瀬肇, 鬼丸忠雄, 佐分利三男, 是枝実, 鷺崎文雄, 下島正夫, 渡辺寛治, 重松愿, 川上謙太郎, 江口辰五郎, 森田定市, 田中敬親, 西松康友, 宮子時雄, 山野善次, 塩塚重蔵, 吉田朝次郎, (地区常議員) 内田一郎, 宇野周三, 根来幸次郎, 和里田新平, 傍島湊, 穂積健茂, (幹事長) 田代信雄, (幹事) 武田武男, 下津秀美, 上田年比古, 乙藤憲一, 福田正典, 和田善吉, 古賀公平, 天方正彦, 吉関正文。

第 1 回幹事会 (昭 29.3.19) 出席者: 山東前幹事長, 武田, 吉関, 上田(代), 福岡(代), 古賀(代), 乙藤, 天方, 和田, 下津, の各幹事, 古江主事, 津崎書記, 熊川支部長及び田代幹事長急用のため上京欠席, 議事: 1) 武田幹事挨拶, 2) 29 年度事業計画及び予算案の検討, 3) 西日本水害調査研究の中間報告。29 年度事業計画としては講演会見学会 (4 月), 春季見学会 (5 月), 研究発表会 (6 月), 夏季講習会 (8 月), 秋季講習会 (10 月), 講演会, 見学会 (11 月), 研究発表会 (1 月), 総会 (2 月) を予定。

昭和 29 年 3 月分入退会報告 (29.3.1~3.31 現在)

1. 入 会	171 名 (特 2 級 1, 正 66, 准 70, 学生 33)
2. 退 会	44 名 (特 2 級 2, 正 17, 准 22, 学生 3)
3. 転 格	29 名 (准より正 28, 学生より准 1)

会 員 現 在 数 (29.3.31 現在)

名誉員	賛助員	特別員 1 級	2 級	3 級	正 員	准 員	学生員	合 計	増加数
19	16	33	73	151	5 005	5 589	1 327	12 213	127

昭和 29 年 4 月 10 日 印刷
昭和 29 年 4 月 15 日 発行

土木学会誌
第 39 巻 第 4 号

定価 100 円

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中 川 一 美
印刷者 東京都港区赤坂溜池 5 番地 大 沼 正 吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京中央郵便局区内 千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話和田倉 (20) 3945 番
4078 番

発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京 16828 番